

令和7年度 県立中央高等学校自己評価表

目指す学校像	・「『知 (virtue) 』の中央」として、地域住民や中学校から信頼される学校 ・自己を律し、主体的に行動し、何事にも挑戦し、創造する学校 ・誰にも公平に接し、豊かな心のふれあいができる学校		
三つの方針	具体的目標		
「三つの方針」 (スクール・ポリシー)	「育成を目指す資質・能力に関する方針」 (グラデュエーション・ポリシー)	(長期的目標) ・自己の将来ビジョンを自己の在り方生き方と関連して捉え、主体的に目標に向かって何事にも挑戦する生徒の育成	
	「教育課程の編成及び実施に関する方針」 (カリキュラム・ポリシー)	(中期的目標) ・多様な進路に対応した教育課程に基づく、基礎学力の向上とキャリア教育の推進	
	「入学者の受入れに関する方針」 (アドミッション・ポリシー)	(短期的目標) ・希望進路の実現に向け、学ぶ意欲と挑戦する積極性を備えた生徒	
昨年度の成果と課題	重点項目	重点目標	達成状況
○成果 ・資格取得推進とICT環境の充実に努め、効果的な学習指導を行うことができた。 ・4年制大学に延べ60名、短期大学に12名、大学校4名、専修学校に74名の生徒が合格した。公務員試験合格者が延べ14名と大きく増加し、民間就職者33名、公務員就職者9名、就職内定率は100%であった。 ・頭髪・服装・挨拶・言葉遣いなどの基本的な生活習慣が定着してきた。 ・運動部11部すべてが県大会（含むオープン参加）に出場した。文化部・同好会も校内発表等をおこない自主的に活動できた。 ○課題 ・分かる授業の展開、基礎学力の向上 ・個々の生徒に応じた進路目標の実現 ・マナーやルールを守る意識の向上 ・運動部の7割以上で県大会出場を実現	1 生徒の主体的な学習を促す授業による「学力」の向上	(1) 個々の進路希望に応じて適切な学習指導を行う。 (2) 指導法研究により、教員の指導力向上に努め、分かる授業を展開する。 (3) 生徒の資格取得を促し、学力向上を図る。 (4) ICTを活用し、より効果的な教育環境を整える。	B
	2 生徒の多様な進路選択をサポートする個別指導の充実	(1) キャリア教育の充実を図り、個々の生徒に応じた進路目標を設定する。 (2) 課外指導や模擬試験の計画的実施とフォローアップにより、高大接続改革に対応できる学力の向上を図る。 (3) 進路ガイダンス、インターンシップ、大学見学会など進路実現に必要な体験の機会を多く提供する。 (4) 面談期間だけでなく、必要に応じ個別面談を行い、進路意識の把握、醸成を図ると共に進路情報を提供し、家庭と連携した進路指導を心掛ける。	A
	3 安全・安心な教育環境の充実と事件・事故の未然防止	(1) 毎日の授業への心構えと安全・安心な教育環境の充実を図る。 (2) 頭髪・服装・挨拶・言葉遣いなども含めた基本的な生活習慣の確立・定着を図る。 (3) いじめの未然防止、早期発見、早期解消に努める。	B
	4 ホームルーム活動や学校行事、部活動への自主的な参加促進	(1) 企画・運営等では生徒の考えを重視し、生徒の自主性を尊重した学校行事運営を図る。 (2) 部活動の充実・強化を目指す。	A
	5 働き方改革の推進	(1) 業務量の適切な管理のため、学校組織自体や各種委員会の在り方を改善を図る。 (2) 在校時間管理システムの適切な運用により、勤務時間の超過を削減する。	B
	6 キャリア・パスポートの活用	(1) キャリア・パスポート活用の推進及び生徒のキャリア形成の促進	B
	7 授業改善の推進	(1) 授業改善推進チームを設置し、年間を通じた研修等を行い、授業改善に取り組む。 (2) 「学びを引き出す授業力」「学びを支援し伴走する力」「求める授業を実践する力」の向上を図る。 (3) 学校評価に係る生徒による授業評価で「授業満足度」の割合3.5以上を目指す。	B

評価項目		具体的目標	具体的方策	評価		次年度(学期)への主な課題
教科	国語	・基礎学力の向上	・家庭学習の定着を図るため、週末課題や長期休暇中の課題の設定を工夫をする。 ・自ら学ぶ力と課題解決能力の涵養を目指し、タブレットや電子機器等を活用したり、協働学習に取り組めるように努める。	b a	B	・語彙を増やし、基礎学力を向上させること。 ・語彙を増やすことによって、様々な文章を読めるようにし、記述する力を向上させること。
		・読書指導の推進と記述力の向上	・漢検の受験を奨励し、合格のための支援をする。 ・読書感想文課題や、図書館オリエンテーションなどを通して、本に触れる機会を増やす。 ・書く力を伸ばすために、授業中に要旨や考えをまとめさせたり、小論文模試を受験させるように努める。	b a		
		・授業改善の実施	・授業評価アンケートの分析や相互授業参観を通して、授業改善を図る。	b		
		・基礎学力の向上	・ICTを活用し、身近な話題や時事的な話題を用いた導入や発問をして興味を持たせる。作業学習、問題演習等により、考える力を育み基礎学力の向上を図る。 ・学習習慣の確立と基礎学力の向上のため補講や個別指導を実施する。	b a		
	地歴・公民	・受験指導の充実	・進学希望生徒に対して計画的・効果的に課外授業を行い、学力向上を図る。	b	B	・授業におけるプリントやノート、さらには教科書準拠ノートの提出の徹底により、基礎学力の充実を図った。
		・評価の工夫	・学習プリントやノートの提出、長期休業中の課題の提出等を通して、適正な観点別評価をする。	a		
	数学	・生徒の実態に応じた指導計画の改善充実	・生徒の進路希望に応じた課外授業を展開する。 ・生徒の理解状況を把握し、生徒の取組を総合的に判断した評価に努める。理解の不十分な生徒には個別指導を実施する。	a a	B	・スタディサプリなどを活用し、生徒の状況に応じた課題を配信することができた。また、理解度や希望進路に応じた個別指導も行うことができた。基礎学力定着や進路実現へ向けて、引き続き行っていきたい。 ・数学検定受験者、合格者を増やしていきたい。
		・基礎学力の向上	・授業中に発問を多くし、定期的に確認テストを実施することで、基礎学力の定着を図る。 ・数学技能検定の受験を奨励し、合格のための支援を行う。	b b		
		・家庭学習時間の確保	・宿題や週末課題を課すことで家庭での学習習慣を確立させる。 ・長期休業課題を通し、安定した学力を維持する。	b b		
		・評価の工夫と改善	・定期考査、宿題、長期休業課題、授業態度、授業内での確認テスト等を通して、観点別評価の工夫を図る。	a		
		・授業改善の実施	・授業評価アンケートの分析や相互授業参観を通して、授業改善を図る。	b		
	理科	・多角的な授業の展開	・授業での生徒実験、演示実験の機会を増やす。 ・教員間の授業見学及び教材研究。	b	B	・実験機会を増やしたことで、単元ごとの興味関心を引き出すことができた。 ・グループ学習やICTを効果的に活用することで、基礎や発展に繋げようとしたが課題が残った。指導方法に工夫が必須。 ・課外等では早期に進路決定した時期から参加率が下降。継続した学習態度育成に課題を残した。 ・個別対応を継続し学習意欲向上に努めることができた。
		・思考・判断・表現の向上	・ICT等を活用し、発問を含め生徒の思考・判断・表現する場面を促す。	b		
		・探究活動の向上	・校外授業や放課後等の課外実験など、多様な学習形態を試みる。	b		
		・進学希望者への対応	・学年主体の課外の他に、個別に生徒対応を行う。	a		
	保健体育	・運動の楽しさの体験と生涯スポーツへの継続	・選択制の授業形態の充実や、生徒の技能段階に応じた授業工夫により、積極的な活動を促進する。 ・自己や周囲の健康、安全に配慮し、運動の楽しさを交えながら技能や体力の向上に努める。	a a	B	・体育の実技においては積極的に取り組む生徒が多く、技能の向上に努めることができた。 ・体力テストにおいては、昨年からの取り組みの成果として今年度「体づくり奨励賞」を受賞することができた。 ・保健以外にも体育の活動においてICTを効果的に活用し、生徒の興味関心や理解を高めたり、技能向上に繋がられるようにしていきたい。
		・運動をととした体力の向上	・体ほぐし、体作りの運動を効果的に取り入れ、筋力や持久力、柔軟性といった基礎体力を高める授業内容を実施する。	a		
		・評価方法の工夫	・観点別評価により、意欲、興味関心、技能などの面から評価を行い、それに基づく手立てを实践する。	b		
		・授業改善の実施	・授業評価アンケートの分析や相互授業参観を通して、授業改善を図る。	b		
		・健康と安全についての総合的理解、健康の保持増進	・ICT教材を効果的に利用し、具体的な情報を得ながら、興味・関心を持たせるよう工夫する。 ・健康診断や身体測定の結果等から自分の健康状態を把握させ、健康処方を実践させる。	b b		

評価項目		具体的目標	具体的方策	評価		次年度(学期)への主な課題
教科	芸術	・＜音楽＞創造的で柔軟な発想力及び健全な芸術的判断力の養成	・コーラスや楽器による豊かな表現などを学び、音楽的な感性を磨く。 ・小アンサンブルによる活動に関心を持たせ、声部の役割と全体の響きとの関わりを理解し、積極的に取り組む。	a	A	・ワークシートを活用し、目標を持って学習に取り組むことができた。 ・生徒の演奏を録画して鑑賞することにより、よりよい演奏のために必要なことやステージマナーについても考えさせることができた。 ・1～3学期に渡り、美術の基礎から応用まで徐々にレベルを上げて学べるようカリキュラムを工夫できた。 ・モザイクコースターは校内に展示し、相互の感性を評価し合った。活動を通じ生活の中での芸術の役割に着目できた。
		・＜美術＞基礎的な技能と芸術を愛好する心情や豊かな感性の育成	・素描や絵画などの基礎的な課題から創作技術の向上を図る。 ・絵画、彫刻、デザインなどの創作活動を通して芸術と生活の関連性を理解し、芸術を愛する心情を養う。	a		
		・授業改善の実施	・授業評価アンケートを実施し、授業改善を図る。	a		
外国語		・基礎学力の向上	・小テストを実施したり課題やノート提出を求めることにより、定期的に生徒の理解状況を確認しながら基本事項の定着を図る。 ・スタディサブリ等を活用して家庭学習用の課題を与え、定期的に点検し評価に加えることにより学習習慣の定着を図る。	a	A	・スタディサブリの活用、小テストを実施し、生徒の学習状況を把握することができた。 ・平常・土曜両方とも課外参加人数を増やし、生徒の学力向上を促す。 ・英検受験者を増やす。英検合格者（3級、準2級）を増やせるよう継続的なリスニング指導を取り入れる。
		・実践的英語力の向上	・授業や課外授業に、4技能をバランス良く育成する効果的な指導を導入する。 ・昨年度の英検合格者数（3級19名、準2級20名、2級3名）を維持できるように支援を行う。	b		
		・生徒の実態に応じた指導計画の改善と充実	・小テスト等により生徒の理解状況を確認しながら、実態に応じた授業展開を行うように工夫改善に努める。 ・生徒の理解状況を把握し、生徒の取組を総合的に判断した評価に努める。理解や取組の不十分な生徒には個別指導を実施する。	a		
		・授業改善の実施	・授業評価アンケートの分析や相互授業参観を通して、授業改善を図る。	b		
家庭		・基本的な生活技術の習得及び実践的学習の機会の提供	・classroom等を活用しながら実験実習を効率的かつ効果的にを行い、基本的な生活技術の定着を図る。	b	B	・classroomでの授業連絡ができるようになってきた。 ・技術の定着を目指したいが、集中力がなかなか続かないところが課題である。
		・評価方法の改善を図る	・実習時の活動の評価について適切な評価ができるよう、観点別評価を取り入れた評価表の作成を試みる。	b		
		・授業改善の実施	・授業評価アンケートを実施し、授業改善を図る。	b		
情報		・情報社会に参加する態度の育成	・コンピュータや情報通信ネットワークなどの活用を通して、情報を適切に収集・処理・発信できるようにする。	b	B	・オンライン学習サービスを利用し、授業の効率化は進んでいる。課題解決に向け情報活用能力を高めるための演習時間を増やす必要がある。
		・情報活用能力の育成	・オンライン学習サービスを利用し、授業の効率化と情報活用能力の育成を図る。	b		

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度(学期)への主な課題
教務	・基礎学力の向上	・A I ドリルの活用により家庭学習を定着させ、基礎学力の向上を図る。	a	B
	・分かる授業の展開	・分かる授業を目指し、相互参観等を通じ教授法や評価を研究し、授業改善に努める。	b	
	・資格取得による学習意欲の向上	・漢検、数検、英検等の受検を促し、学習支援により成功を体験させ、生徒の学習意欲を高める。	a	
	・ICTを活用した教育環境	・教員と生徒が電子黒板やタブレット端末を活用し、効果的な教育活動を行う環境を整える。	b	
	・図書館の有効活用	・研修への参加や、「図書館だより」への執筆など、図書委員の自主的な活動を奨励する。	b	
進路指導	・課外指導等の充実	・課外授業やオンライン学習サービスの活用等を利用した指導を充実させ、学習習慣と学力の定着を図り、高い進路実現を目指す。	b	A
	・インターンシップ等の充実と進路意識の高揚	・インターンシップや実習体験への参加を通して、職業観の育成と自己の適性の確認を図る。	b	
	・進路指導内容の充実	・各種進路行事の充実を図るとともに、総合的な探究の時間等を有効利用し、明確な進路目的を早期から持たせ、自己の進路を主体的に選択決定できる能力や態度の育成を図る。	a	
		・高大接続改革についての対応を充実させ、精選した最新の進路情報を提供する。	a	
		・高大連携（スポーツ演習講座・出前授業・高校生公開講座等）を積極的に推進する。	a	
生徒支援	・安全安心な教育環境の整備と基本的生活習慣の確立	・定期的に頭髮・服装検査を実施し、高校生として好ましい頭髮や制服の身だしなみを確認・指導する。	b	B
	・ルールの主体的な遵守と公共のマナーや規範意識の向上	・さわやかマナーアップキャンペーンなど、生徒会役員や各学年生活委員及び保護者、地域住民、関係機関等と連携・協力して地域ぐるみで生徒たちを見守る体制を構築する。	b	
		・毎週火・木曜日 8 時 05 分～30 分、羽鳥駅から学校までの通学路における登校指導を実施し、生徒指導全般（安全な自転車運転、身だしなみ、挨拶の励行）を確認・指導する。	a	
		・集会・HR・面談等を通して、マナーやルールを主体的に遵守できる態度を養う。また、保護者との連絡を密にして、学校と家庭が一体となった円滑な生徒指導を行う。	b	
	・関係機関との連携を強化し、いじめの未然防止、早期発見及び早期解消を図る	・全校生徒を対象に講演会（交通安全教室、薬物乱用防止教室など）を実施することにより、マナーやモラルなど規範意識の向上を図る。	a	
		・情報モラル教育を推進する。	a	
		・いじめの未然防止・早期発見するために、年 3 回以上アンケート調査を実施する。	a	
		・警察、児童相談所、法務局等の関係機関との連携を図る。	b	
保健指導	・健康診断の円滑な実施	・学年団・教務時間割係と連携し、連絡の徹底とやむを得ず欠席する生徒への早期対応を行う。	a	B
	・配慮を要する生徒への対応	・職員研修の機会を通し、ユニバーサルデザインと配慮を要する生徒への対応方法について学ぶ。	b	
特別活動	・学校行事の充実	・生徒会活動・委員会活動の活性化に努め、生徒の自主性・責任感・協調性を育む。	a	A
	・部活動の充実	・各種行事の日程や実施方法を検討し、より充実した学校行事を目指す。	a	
		・部活動の様子や成果をホームページに定期的に掲載し、PRを図る。	b	
	・キャリアパスポートの活用	・伝達表彰・壮行会を実施し、部活の成果を発表する。	a	
		・生徒のキャリア形成を促進するため、ホームルーム活動において、生徒の活動を記録し蓄積したキャリアパスポートを作成する。	b	

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価		次年度(学期)への主な課題
渉外	・各種行事の保護者参加率の向上	・P T A総会時に、3 学年の進路説明会を開催し、総会への出席率が30%を超えるようにする。	b	B	・P T A総会の出席率は昨年同様目標には達しなかった。支部P T Aの廃止も含めて行事や運営方法を考える必要がある。
	・広報活動の活性化	・行事開催の3週間前には案内を配付できるように計画をすすめ、出席率向上を図る。 ・P T A会報「もにたあ」を9月下旬と2月下旬の年2回発行する。	a b		
管理職	・校内組織の業務内容の見直しと、業務処理の軽量化	・校内組織の業務内容の見直しによる業務量削減と業務処理の軽量化を図る。	b	B	・常に業務内容の見直しや軽量化をはかり、さらに働き方改革を推進していく。 ・時差出勤の活用により、時間外勤務の抑制を進めたい。
	・勤務時間の超過を削減	・時差出勤を効率的に利用することで、時間外勤務の削減を図る。	b		
事務	・職員の心身のリフレッシュ	・年休の有効活用により1年を通して健康で活力のある環境を維持する。	a	B	・限られた予算の中で、教育環境の整備を図るため、計画的、効率的に予算執行を心がける。 ・施設設備の事故等が発生しないように日々の巡視等に努め、老朽設備等の整備を進めていきたい。
	・学校財務マネジメントによる校内予算の管理	・校内予算を有効活用するには、学校目標や経営計画等に基づき、その課題を改善すべく予算執行することも重要だと考えられるため、その具体的方策について検討していく。	b		
	・茨城県予算の適正な執行	・公金を扱っているという認識のもと適正な事務処理を行うとともに、コスト意識に基づき早期かつ効果的な予算執行に努める。	a		
	・施設設備の適正な管理	・日々の業務の中で事務職員と技術職員の連携を図り、修理箇所への対応を早期に実施する。学校施設設備による事故が発生しないよう校内巡視等を強化する。	b		

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度(学期)への主な課題
第一学年	・基本的生活習慣の確立	・朝の挨拶運動やホームルーム活動、頭髮服装指導をとおして、高校生としてふさわしい挨拶・言葉遣い・服装頭髮ができるようにする。	b	A ・「規範意識と個別の支援」 一部にみられる規範意識の不足や人間関係の悩みに対し、家庭と緊密に連携して粘り強く指導・支援を継続する。 ・「ICT活用の主体性向上」 タブレット等のICT機器を「使わせる」段階から、生徒が「主体的に活用して学力を定着させる」段階へ高める工夫が必要である。 ・「進路意識の行動化」 進路行事で得た情報を、生徒自身の具体的な進路選択や日々の学習意欲の向上へ直結させる指導を強化する。
	・基礎学力の向上	・授業を第一と考え、そのための準備を整え集中して臨むことにより、主体的な学びを促す。	b	
	・進路意識の高揚	・タブレットを活用した課題配信や添削指導により、家庭学習の習慣化率を向上させる。	a	
	・規範意識の高揚	・進路意識を高めるために進路講演会や出前授業・大学見学会を開催し、生徒一人ひとりの進路希望や適性に合わせた情報提供を行う。	a	
	・保護者（家庭）との連携	・善悪の判断を正しくつけさせるために、問題行動の未然防止及び再発防止に努める。	a	
第二学年	・生活指導の充実	・保護者面談を充実させるとともに、生徒の状況に関する情報を定期的に共有し、家庭と連携した支援体制を構築する。	a	A ・一部に、規範意識の不足や、その場面に相応しい態度・発言ができていない生徒がみられ、今後も継続して、保護者と連携を密にして指導に当たる必要がある。 ・最上級生として相応しい振る舞いができるよう、粘り強く指導を継続していく。 ・基礎学力向上のため、今以上に主体的に学習に取り組む態度を育成するための工夫が必要である。
	・基礎学力の向上	・挨拶・言葉遣い・服装頭髮が高校生としてふさわしいものであることに加え、様々な場面において、ふさわしい態度、発言ができるよう指導を徹底する。生徒の長所や個性を把握し、悩みや問題を早期に解決するよう努める。保護者との連携を密にする。	b	
	・授業改善の実施	・生徒の実態に合わせた授業を展開し、小テスト等を実施することで、生徒の基礎学力の向上を図る。また、課外やスタサブ等を活用することで更なる学力の向上を目指す。	b	
	・進路指導の充実	・定期考査、模擬試験、授業評価アンケートの分析を通して、授業改善を図る。	a	
	・学校行事への積極的な参加	・進路講演会や出前授業、大学見学会等の進路行事の内容を充実させることで、生徒の進路意識を高める。	a	
第三学年	・キャリア教育の充実	・文化祭や修学旅行等の行事に積極的に参加させ、体験的活動を通して、他者理解を深め生徒のより良い人格形成を促すとともに、クラスの親睦を図る。	a	B ・自主的に学習に取り組む姿勢を身につけさせること。 ・基礎学力を向上させること。 ・進路先の決定に向けて、経済面の課題を含めて、保護者との情報交換を行うこと。
	・学力の向上	・個人面談、保護者面談、進路別LHRを有効に活用し、生徒それぞれの進路希望に応じた適切な指導を実践する。 ・進路指導部との連携を図り、進路行事を充実させ、生徒全員の進路希望を実現する。	a	
		・家庭学習時間を確保するため、スタサブを活用して課題や学習計画指導の工夫をする。 ・平常課外や土曜課外、夏季・冬季休業中の課外への積極的な参加を促すとともに、最後まで学習に向かう姿勢を身に付ける。 ・目標値を設定したり、テスト後の解説を徹底し、模擬テストを有効に活用する。	b	

※評価基準 a：十分達成できている b：達成できている c：概ね達成できている d：不十分である e：できていない